

四半期報告書

(第19期第1四半期)

自 平成26年3月1日

至 平成26年5月31日

株式会社イオンファンタジー

千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 2

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 5
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 6
- (4) ライツプランの内容 6
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 6
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 6

2 役員の状況 6

第4 経理の状況 7

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 10
 - 四半期連結損益計算書 10
 - 四半期連結包括利益計算書 11

2 その他 14

第二部 提出会社の保証会社等の情報 14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年7月8日
【四半期会計期間】	第19期第1四半期（自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043（212）6203（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第1四半期 連結累計期間	第19期 第1四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日	自平成26年3月1日 至平成26年5月31日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
売上高 (千円)	11,398,877	11,425,332	46,541,813
経常利益 (千円)	422,091	479,365	2,645,188
四半期(当期)純利益 (千円)	148,755	184,061	1,117,341
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	364,742	119,880	1,423,283
純資産額 (千円)	19,832,554	20,475,061	20,618,702
総資産額 (千円)	26,191,407	26,916,567	27,978,480
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	8.20	10.15	61.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	8.18	10.11	61.40
自己資本比率 (%)	74.3	74.8	72.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は、フィリピンに進出しました。これに伴い、当社は子会社が1社増加しました。

当第1四半期連結累計期間に設立した子会社は、次のとおりであります。

イオンファンタジーフィリピン（AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.）

この結果、平成26年5月31日現在、当社グループは、当社及び子会社5社により構成されることとなりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間は、‘スピード最優先’をテーマに「①店舗数の拡大、②ゲーム機の海外調達、③ブランディング推進」といった3つの重点施策を‘成長を支える戦略サイクル’と位置付け、圧倒的なコスト優位と差別化の実現に向けた取組みを進めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高114億25百万円（前年同期比100.2%）、営業利益5億22百万円（同138.2%）、経常利益4億79百万円（同113.6%）、四半期純利益1億84百万円（同123.7%）となりました。

なお、遊戯機械等の使用期間の見直し等により当第1四半期連結累計期間の減価償却費が減少しております。

(国内事業)

国内事業は、消費税増税に対し価格転嫁を見送り、原価やコストの削減で利益確保をめざすことを早期に意思決定し、プロジェクト活動で計画された具体的な削減策を実行いたしました。中でも遊戯機械調達の海外シフトによる減価償却費の削減や店舗業務に応じた人員配置計画に対する進捗コントロールを強化するなどコスト低減が奏功し、利益確保に一定の成果をあげました。

国内における成長基盤の拡大をめざしており、当第1四半期連結累計期間においては3店舗の新規出店となりました。

以上の取組みの結果、国内事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は104億86百万円（前年同期比95.7%）と消費税増税の影響等がありましたが、セグメント利益は5億73百万円（同123.3%）となりました。

(海外事業)

海外事業については、利益改善を進めております。新規出店は中国2店舗、マレーシア3店舗、タイ1店舗となりました。

これにより海外事業の当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高9億48百万円（前年同期比208.6%）、セグメント損失50百万円（前年同期セグメント損失87百万円）となりました。

財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、90億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ21億81百万円減少いたしました。主な内訳は、当第1四半期会計期間末日が金融機関の休日のため、売上預け金のうち22億57百万円が翌営業日に決済されたことによる売上預け金の増加(27億79百万円)や関係会社寄託金の減少(60億円)であります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、178億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億19百万円増加いたしました。主な内訳は、新店及び店舗活性化等に伴う遊戯機械の増加(9億93百万円)であります。

この結果、総資産は269億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億61百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、61億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億18百万円減少いたしました。主な内訳は、未払法人税等の減少(8億44百万円)であります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、3億27百万円となりました。

この結果、負債合計は64億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億18百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、204億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億43百万円減少いたしました。主な内訳は、四半期純利益の計上(1億84百万円)や剰余金の配当による減少(2億72百万円)であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は114億25百万円となり、前年同期より26百万円増加いたしました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高86億34百万円、商品売上高26億73百万円、委託売上高43百万円、その他74百万円であります。主な内訳は店舗数の積極的な拡大による遊戯機械売上高の増加(1億73百万円)やカードゲーム機等の商品売上高の減少(2億21百万円)によるものであります。

(売上原価)

売上原価は101億53百万円となり、前年同期より1億24百万円減少いたしました。主な内訳は海外事業の店舗増加による地代家賃及び人件費等の増加や耐用年数見直し等による減価償却費の減少によるものであります。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は7億48百万円となり、前年同期より6百万円増加いたしました。主な内訳はイオンファンタジーフィリピンの設立費用等によるものであります。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は17百万円となり、前年同期より35百万円減少いたしました。営業外費用は61百万円となり、前年同期より52百万円増加いたしました。主な内訳は為替差損益によるものであります。

(特別損失)

特別損失は11百万円となりました。主な内訳は閉店の意思決定に伴う閉店損失引当金繰入額及び減損損失の計上によるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年7月8日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	18,175,688	18,175,688	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

当第1四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成26年4月8日
新株予約権の数(個)	82
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	8,200 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	1
新株予約権の行使期間	平成26年6月10日～ 平成41年6月9日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,050 資本組入額 525 (注) 2
新株予約権の行使の条件	① 新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役または監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役および監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限って権利行使ができるものとする。 ② 新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡し、またはこれを担保に供することは原則としてできない。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割（または併合）の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承認される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ株式数の調整を必要とする場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

2. 新株予約権の行使による株式の発行については、自己株式を充当する場合には、資本組入は行わないものとする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月1日～ 平成26年5月31日	—	18,175,688	—	1,747,139	—	1,650,139

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成26年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 35,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,058,700	180,587	—
単元未満株式	普通株式 81,188	—	—
発行済株式総数	18,175,688	—	—
総株主の議決権	—	180,587	—

②【自己株式等】

平成26年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社イオンフ ァンタジー	千葉県美浜区中瀬 一丁目5番地1	35,800	—	35,800	0.20
計	—	35,800	—	35,800	0.20

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第1四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,246,115	3,742,837
売上預け金	※1 101,669	※1, ※2 2,880,715
たな卸資産	1,053,891	1,420,461
関係会社寄託金	※3 6,000,000	-
その他	836,828	1,012,710
流動資産合計	11,238,505	9,056,724
固定資産		
有形固定資産		
遊戯機械（純額）	9,355,109	10,348,785
その他（純額）	3,534,873	3,668,704
有形固定資産合計	12,889,983	14,017,489
無形固定資産		
のれん	824,230	760,367
その他	124,649	152,875
無形固定資産合計	948,880	913,243
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	2,174,925	2,206,885
その他	※4 726,186	※4 722,224
投資その他の資産合計	2,901,111	2,929,110
固定資産合計	16,739,975	17,859,843
資産合計	27,978,480	26,916,567
負債の部		
流動負債		
買掛金	994,840	1,076,032
未払費用	850,116	1,259,605
未払法人税等	1,231,791	387,445
賞与引当金	205,231	335,946
役員業績報酬引当金	25,778	14,732
閉店損失引当金	10,956	5,640
設備関係支払手形	1,867,704	2,088,096
その他	1,846,010	946,155
流動負債合計	7,032,430	6,113,653
固定負債		
退職給付引当金	32,019	34,381
資産除去債務	220,310	217,149
その他	75,018	76,321
固定負債合計	327,347	327,852
負債合計	7,359,778	6,441,506

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,747,139	1,747,139
資本剰余金	1,709,697	1,709,697
利益剰余金	16,358,418	16,270,381
自己株式	△57,270	△57,296
株主資本合計	19,757,983	19,669,921
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,592	15,405
為替換算調整勘定	505,267	437,195
その他の包括利益累計額合計	520,860	452,600
新株予約権	66,142	74,744
少数株主持分	273,715	277,795
純資産合計	20,618,702	20,475,061
負債純資産合計	27,978,480	26,916,567

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	11,398,877	11,425,332
売上原価	10,278,111	10,153,953
売上総利益	1,120,765	1,271,378
販売費及び一般管理費	742,862	748,948
営業利益	377,903	522,430
営業外収益		
受取利息	3,477	4,044
為替差益	43,352	-
機械仕入割戻	1,946	2,840
その他	4,372	11,082
営業外収益合計	53,148	17,968
営業外費用		
為替差損	-	50,654
固定資産売却損	8,329	3,584
その他	631	6,793
営業外費用合計	8,960	61,032
経常利益	422,091	479,365
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	17,252	5,640
減損損失	27,530	3,278
店舗閉鎖損失	-	2,413
特別損失合計	44,783	11,332
税金等調整前四半期純利益	377,308	468,033
法人税、住民税及び事業税	81,033	362,807
法人税等調整額	146,496	△78,429
法人税等合計	227,529	284,378
少数株主損益調整前四半期純利益	149,779	183,655
少数株主利益又は少数株主損失(△)	1,023	△406
四半期純利益	148,755	184,061

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	149,779	183,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,609	△187
為替換算調整勘定	209,353	△63,586
その他の包括利益合計	214,963	△63,774
四半期包括利益	364,742	119,880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	336,493	115,801
少数株主に係る四半期包括利益	28,249	4,079

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジーフィリピン(AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES INC.)を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

従来より、当社及び連結子会社が保有する有形固定資産の遊戯機械の耐用年数については、各資産の使用実態を勘案して2～6年の範囲内で減価償却を行ってまいりましたが、当連結会計年度から開始する中期経営計画におけるオリジナル遊戯機械等導入方針に基づき使用期間を見直した結果、一部の遊戯機械について従来の耐用年数よりも長期間使用する見込であることが明らかとなったため、耐用年数の範囲を2～9年に変更しております。

また、遊戯機械の耐用年数の変更を契機に、当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行った結果、当連結会計年度より備忘価額に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法に比較して、当第1四半期連結累計期間の減価償却費が357,903千円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益が同額増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

※2. 四半期会計年度末日が休日のため増加した主な資産

当第1四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日のため、下記の科目に含まれている翌営業日に決済される金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
売上預け金	— 千円	2,257,047千円

※3. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

※4. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
投資その他の資産	2,720千円	2,720千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日)
減価償却費	1,080,885千円	1,006,332千円
のれんの償却額	70,098	69,924

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)

配当金支払額

平成25年4月16日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	544,017千円
② 1株当たり配当額	30円
③ 基準日	平成25年2月28日
④ 効力発生日	平成25年5月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)

配当金支払額

平成26年4月8日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	272,098千円
② 1株当たり配当額	15円
③ 基準日	平成26年2月28日
④ 効力発生日	平成26年5月2日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,944,312	454,564	11,398,877	—	11,398,877
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,563	—	7,563	△7,563	—
計	10,951,876	454,564	11,406,440	△7,563	11,398,877
セグメント利益又は損失(△)	465,018	△87,114	377,903	—	377,903

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,476,956	948,375	11,425,332	—	11,425,332
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,430	—	9,430	△9,430	—
計	10,486,387	948,375	11,434,762	△9,430	11,425,332
セグメント利益又は損失(△)	573,304	△50,874	522,430	—	522,430

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更)

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社及び連結子会社は、一部の遊戯機械の耐用年数を変更し、また当社が保有する有形固定資産の残存価額について見直しを行いました。

この変更により、当第1四半期連結累計期間の「国内」のセグメント利益は312,836千円増加し、「海外」のセグメント損失は45,067千円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	8円20銭	10円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	148,755	184,061
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	148,755	184,061
普通株式の期中平均株式数(株)	18,137,246	18,139,863
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	8円18銭	10円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
(うち支払利息(税額相当額控除後) (千円))	—	—
普通株式増加数(株)	53,008	64,010
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

平成26年4月8日開催の取締役会において、剰余金の配当につき次のとおり決議いたしました。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 配当金の総額 | 272百万円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 15円00銭 |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年5月2日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年7月2日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

渡辺 雅子

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

杉本 健太郎

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成26年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

会計上の見積りの変更に記載されているとおり、会社は当第1四半期連結会計期間より遊戯機械の耐用年数及び有形固定資産の残存価額を変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年7月8日
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片岡 尚
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 管理統括兼リスクマネジメント担当 新田 悟
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役片岡尚及び常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当新田悟は、当社の第19期第1四半期（自平成26年3月1日 至平成26年5月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。